

卒業生に贈る言葉

校庭の梅の花も満開を過ぎ、日を追うごとに春の訪れを感じる季節となりました。今年度の卒業式も新型コロナウイルス感染症拡大対策として、残念ながら卒業生・教職員・保護者のみの参加となりましたが、お忙しい中お越しいただきました、保護者の皆様と共に、第四十七回卒業証書授与式がこの様に挙行できる事は、喜ばしい限りです。

第四十七期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

ただ今巣立っていく3年生、百十五名一人ひとりに卒業証書を授与いたしました。保護者の皆様におかれましても、日々慈しみ愛情を注いでこられたお子様の卒業に、言葉では言い表せない感動を胸に抱いておられることと推察いたします。私は卒業生の皆さんの入学と同時に、本校に赴任して参りました。希望と不安が入り混じり、緊張した面持ちで体育館に入場してきた皆さんに、「自分を大切に他人も大切にしましょう」「元氣な挨拶ができる人になりましょう」「自分で考えて行動できるようにしましょう」と話したことが、昨日のように思い出されます。

皆さんと共に過ごした3年間は、当に激動の3年間でした。1年生では、大阪北部地震・大雨・台風と自然災害が続き、雨天での「体育祭」や、地震で実施日・場所が変更になった「学習発表会」。2年生では、真夏のような暑さの中での「体育祭」、「学習発表会」での学年合唱「平和の鐘」は聴くもの全員がその歌声と迫力に感動しました。3月からは新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら長期の臨時休校となりました。今年度になっても、感染拡大防止対策で行事の変更・中止が相次ぎ、クラブ関係でも大会や発表会が軒並み中止となり、皆さんの日頃の練習の成果を見られなかったことが心残りです。

その中でも、「修学旅行」と「体育祭」が実施できました。ようやく仲間との繋がりが実感できた喜びと、安心した様子が印象的でした。「修学旅行」では、自然の中で思いっきり童心に帰って楽しんでる姿が印象的でした。「体育祭」での「古中ソラン」は、団結力・躍動感等、四十七期生の底力が伝わってきました。限られた行事でしたが、皆さんの弾けるような笑顔が、今でも瞼に浮かび上がります。学習面では、3月に入ってからでも、最後まで全員が落ち着いて学習に集中していました。当たり前のことを当然のようにしている姿を見て「質の高い集団」に育っていると強く感じました。

そんな皆さんにお話してできるのも、名残惜しいですが今日が最後です。この最後の機会に、饒の言葉を送りたいと思います。

それは、三月の学校日より同様、元プロ野球選手で監督も務められた、野村克也さんの言葉で「希望に起き 努力に生き 感謝に眠る」です。この言葉は、一日の中での話だけではなく、人生の中・長期的視点に立っても大切だと思えます。一日で見ると、朝起きた時に「今日はこんな事にチャレンジしてみよう」と考え、昼間、活動時にそのことに集中する。夜寝る時は、一日を振り返り、その日お世話になった方々への感謝の気持ちを持ち、翌日の活力にしながら床に就く。

社会に出るまでの中期的視点で考えると、皆さんは「希望に起き」の時期から、「努力に生き」の時期に差し掛かろうとしているのではないのでしょうか。義務教育9年間で培ってきた基礎的な力を、次の3年間で開花せる時期です。学習でもスポーツでも趣味でも何でも良いですから「努力」し掴んでください。そして社



会に出たときにお世話になった方々へ「感謝」の念を持ち、社会人として巣立ってください。

また、長期的な視点、人生そのもので考えると、皆さんはまだ「希望に起き」の時期です。学生時代に「希望」を持ち続け、社会に出たときに「努力」し、「夢」の実現に邁進し続ける。そして、退職したときに「感謝」の念を持って第二の人生に進んでいく。一生「希望」「努力」「感謝」の「繰り返しですよ。」と言われていると思います。

この言葉が生まれた背景は、野村氏が貧しい家庭で育ち、人一倍の努力（練習）を続け、戦後初めての三冠王や監督としても名将と言われました。「野球で成功し有名になりたい。」と「希望」を持ち、希望を叶えるために「努力」を続け、四十二歳まで現役選手でした。野村氏は「若い人は夢を持ちなさい」とも言われていました。夢は生きる活力に繋がります。

皆さんは今後、正解のない問に正対しながら生きてゆかなくてはなりません。今回のコロナウイルス感染症でも、今までの経験値がほぼ役に立たず、何が正解かわからないまま現在に至っています。少しずつ分かってきたこともありますが、その時々で最適解を選択しながらの日々が続いています。残念ながら、この状態は当分続くと思われれます。

また、皆さんが社会に出る頃には、「労働環境の急変、グローバル化・多極化の波の到来により、世の中の流れは我々大人が予想するよりもはるかに早く、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高い。」と文部科学省は予測しています。皆さんは時代の大きな変わり目を生きていくのです。SDGsやSociety 5.0に代表されるように、今までにない概念で思考を進めていく必要があります。こう言うと前途多難感が強くなるのですが、皆さんにはこの古江台中学校で「人とつながる力」を学び実践してきました。また、皆さんには「無限の可能性と創造力」があります。時代の変わり目だからこそ、自分の可能性を信じ、「希望」と「夢」を持って「努力」を続けてください。

『希望に起き、努力に生き、感謝に眠る』の3つのキーワード「希望」「努力」「感謝」を頭の片隅にでも留めて、これからの人生を一步ずつ歩んでいってください。万一迷いや、困ったことがあればこの古江台中学校を訪れて、皆さんが仲間とともに過ごした3年間を思い出してください。きっと解決に向けてのヒントがあるはずですよ。

さて、保護者の皆様、お子さまのご卒業、本当におめでとうございます。至らぬ点多々あったかと思いますが、三年の担任をはじめ教職員一同、精一杯努力して参りました。特にこの1年間は社会全体が「感染拡大防止対策」として我慢を強いる形になり、生徒たちにとってもストレスの連続だったと思います。しかしながら、子どもたちはよく我慢して、頑張ってくれました。この間、保護者の皆様からいただきました、本校教育活動に対するご理解・ご協力に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さあ、巣立っていく皆さん！皆さん一人一人が人生の主人公です。無限の可能性へ大きく第一歩を踏み出してください。皆さんの限りない成長と今後の活躍を願って、私の式辞といたします。



令和三年三月十二日

吹田市立古江台中学校

校長 森田 直樹